

市民環境大学OB会 ニュースレター



第25号 2019年3月14日 発行

2019年春 河津桜

OB会へのおさそい！

日野市民環境大学 修了生の皆さまへ

OB会 飯島 利三

日野市民環境大学を受講した仲間は昨年で10期となり、累計で159名にもなっています。今年も5月からは2019年度の講義が予定され、第11期の受講生の応募が始まっています。

さて、私たちは小倉先生のわかりやすい授業で楽しく学び、学ぶ喜びを実感してまいりました。そして、この学びをもとに自主的に助け合って、お互いに無理なく理解を深め、確かめていけますようにOB会をスタートしました。OB会活動は昨年で7年を経過し今年は8年目となります。

大学を修了した後も小倉先生に顧問として指導を頂きながら、継続して環境について学ぶことで、身の周りの出来事に広く関心を持ち、自分の目や耳でしっかりと確認し、そのことをOB会員同志で共有できてきたと感じています。しかしながら、最近は新しく参加される方が少なくなってきたのも現実です。

OB会は一人一人がリーダーであり、全く同等な関係であり、会費も不要としています。小倉門下で学んだ同志、気軽に参加して交流の輪を広めましょう。

以下は2019年度のOB会活動の日程と活動内容の概略です。

◆次年度月例会の予定◆

活動内容 <<報告、連絡、情報交換、施設等見学会など 約2時間>>

会場 <<日野市立カワセミハウス>> 日程 <<各月 第3木曜日>>

◆具体的活動内容紹介◆

- ・施設見学会
- ・湧水量、放射線量測定（毎月1回）・身近な水環境の全国一斉調査に参加（6月 年1回）
- ・窒素酸化物濃度測定に参加（6月、12月 年2回）
- ・水と緑の日野市民ネットワーク（みみネット）に加入
- ・ニュースレター発行（各月） OB会員の活動内容紹介、投稿紹介

『黒川清流公園湧水対策検討委員会』を傍聴して

OB会 河原 鋒男

東京都及び日野市の緑地保全区域で湧水の白濁枯渇が発生し、工事中断となってから半年が経過しました。市はこの清流を後世に残すため、原因の究明や対応策についての検討を学識経験者に委嘱して表記の対策検討委員会を立ち上げました。初回は昨年11月に開かれ、今までに3回開催されました。今回そこで聴き取った概要をメモとしてまとめました。

初回は事務局から経過説明の後、中断放置されている杭打掘削箇所の埋戻し施工の検討が委員と施工者の間で話され、埋戻しは地下水の流れを妨げないよう荒粒度の砂を掘削孔の底部まで充填することとなりました。更に枯渇原因の究明、その再発防止策が検討されましたが、現地の地質資料も少なく委員、施工者共に意見は低調でした。委員からは向こう1年間位地盤調査を実施した方がよいとの話も出ましたが施工者側を忖度してか見送られました。施工者は地下水脈を調査する井戸の増設、データ採取、濁りを計る濁度計の採用など問題に対する姿勢は見せてきてはいます。

第3回（2月8日）には施工者からコンクリ杭に代わるエコパイル杭を検討するとの話が出ました。（エコパイル杭とはスクリー型杭を埋め込む法。羽根部分の直径は大きい耐荷重の関係で杭本数、工期費用は増加する。白濁原因の土硬化剤は不要で地下水脈を塞がない利点はある）委員からは耐用年数、深く施工する技術など詳細資料の提出が求められました。更にエコ杭でも枯渇はないという保証はできないという強い意見も出ました。検討委員会の流れとしては市や施工者にどういう技術・工法を採ったら枯渇を低減できるかという・・・提言をするだけでそれで解決できるとはいえない。最終的には認可した市と施工業者との案件である・・・というような発言も出ている状況です。

会議はあと2回位と聞いていますので今後の動向を注視していきたいと思っています。

2019-2-26 記

[OB会コラム]

投稿 「高層マンション建設工事による黒川清流公園湧水白濁問題、

一部一時枯渇、にたいする提言と要望」

OB会 田中 徹

今回の湧水白濁、一部一時期枯渇（以下枯渇と表記）は事前から危惧されており事業者にも再三検討を要望していたものです。結果的には予期したように最悪の状況になりました。白濁問題は因果関係がベントナイト杭打ち工事と明確になりました。枯渇については原因断定がされていませんが杭打ち工事直後に枯渇したのは明確で、杭打ち工事が原因とじゅうぶん考えられます。黒川清流公園は市民、都民の次世代に引き継ぐ貴重な財産です。本問題に関し市民、都民の立場から下記のように提言と要望いたします。

記

1. 提言と要望

「多摩平団地建替事業の整備敷地における総合的なまちづくりに関する基本協定書」が締結された当時まで立ち戻り根本的な「まちづくり構想」見直しを求めます。当該の土地はマンション建設工事を取りやめ森林公園など公共用地（所有地、市有地）にするのが理想です。最悪でも杭打ち工事は中止し戸建住宅など低中層住宅街（2～5階）にすべきです。

2. 提言と要望の理由

- ①黒川清流公園の湧水は日野市の「水辺50選」でNo.1、東京都の「名水57選」「東豊田緑地保全地域」に指定されています。湧水から市民、都民が享受する利益は公共性があり永続的なものです。ましてや金銭的に換えられるものでもありません。一事業者の利益、一時的な利益よりも公益性に優越性があるのは明らかです。
- ②湧水白濁の経過をみると杭打ち工事との関連が明確になりました。枯渇は杭打ち工事直後の発生は明らかです。更なる杭打ち工事を続ければ黒川清流公園の湧水壊滅が暗示される事態になりました。日野市の湧水条例第11条、第12条に照らしても杭打ち工事は中止すべきです。工事方法の変更等で解決されるとは思えません。
- ③今回の問題は「多摩平団地建替事業の整備敷地における総合的なまちづくりに関する基本協定書」が締結された当時まで立ち戻り「まちづくり構想」を再考する必要があると思います。協定書締結時の「まちづくり協議会」の構成をみると産業振興的色彩が強く行政から環境問題に係わる委員が出ていません。当然ながら「土地利用の方針及び住環境整備」で建物の空間の配置、色彩、デザイン、樹木の保全、緑化など景観課題にとどまり、深い環境把握に欠けていると言わざるをえません。地表環境だけでなく、地下水など地下環境、周囲環境（黒川清流公園）への考慮が感じられません。現代は台風など暴風、オスプレイ飛行など米軍管制の上空空間さえ考慮する時代になっています。
- ④「建替前の団地まちなみ」から教訓を学ぶ必要があります。昭和30年代につくられた団地ですがKゾーンなど黒川清流公園に近接する周辺地区は全て2階建の低層住宅になっていました。当時の設計者が地下水の保全、黒川清流公園区域の湧水まで考慮してまちづくり構想をされたかは定かではありませんが、結果的には黒川清流公園の近接する周辺地区に低層住宅群を配置したことが地下水を保全し湧水の枯渇を避け水に恵まれた黒川清流公園の景観が守られてきたと言えます。

3. 早急に関係者の話し合いで解決を。

建設工事が進捗された現在、金銭的利害関係等、いくつかの課題が生じるのは避けられません。しかし前述のように次世代に引き継ぐ環境遺産は金銭に換えられず公益性、永続性があります。一時的な利益を追求し環境破壊がおきれば取り返すことができず、なんとしても避けなければなりません。行政（都、市）は各種条例で、事業者は企業理念で言葉はそれぞれ違いますが環境を考慮した街づくりを詠っています。関係者がそれぞれの立場、理念を尊重し話し合い、湧水を守り黒川清流公園を次世代に残せるよう勇気ある円満なる解決策の作成を要望します。

市民、都民に支持される解決策ができれば環境保護の模範例として影響力を高め行政や事業者のイメージアップなどの利益に通じると考えます。

以上

2018/10/18記

OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・市民環境大学開講 前期：5月9日～ 後期：10月10日～ 前期後期各10単元
- ・浅川水量観察会実施（2月5日） 水量減少が危惧される浅川の現状観察